

第66回



品質月間

2025年11月1日～11月30日

テーマ

●今こそみんなで考えよう! これからの品質の力

Now is the Time to Think Together! The Power of Quality in the Future

品質月間(Quality Month)を迎えて

少子化や自然災害の発生、物価高、国際紛争や社会経済的な変化、AIの急激な発展などの環境は加速度的に変化してきています。その中で仕事の喜びや達成感、自己肯定感、心理的安全性が得にくくなり、仕事に矛盾を感じたり疎外感や閉塞感を感じたりするようになってきています。激しい環境の変化の中で行き詰まりが感じられる今だからこそ、この状況を打ち破るための何かが必要とされています。

品質は物事の良し悪しを評価するものであり、人が協力する際の共通の目標やありたい姿を表現するものといえます。良し悪しを評価する品質に着目することで物事を改善し、創造することができます。PDCAや人間性尊重に基づく人財育成、人間力とチーム力の発揮、科学的な問題解決力や品質文化の育成、市場を拓く価値創造やリーダーシップ、AIやDXの活用など品質の力を高めるための考えや方法がそれぞれの場面に応じて豊富に作られてきています。PDCAは不確実な環境の中での管理の考え方を表したものであり、不確実な中での改善によるスパイラルアップ(螺旋階段を上るようにレベルアップ)を目指すものです。閉塞感を感じる今だからこそ現状をよりよくするためにこれからの品質の力を発揮することが期待されます。

激しい環境変化への適応は一筋縄ではいかないかもしれません。一人で現状を変えるのは困難ですし、考え方や方法を形式的に活用するだけではうまくいかないかもしれません。明日という明るい未来に向かって今こそ品質の力をみんなで考え、品質の力を発揮し、行き詰りを打ち破ることが期待されます。この品質月間を機会に一人ひとりが品質に目を向け、品質の意味やその価値を改めて考えることができれば幸いです。

第66回品質月間委員会委員長
石津 昌平(青山学院大学 名誉教授)

品質月間委員会

委員長

石津 昌平 青山学院大学 名誉教授

副委員長

丸山 一彦 和光大学 経済経営学部 経営学科 教授
光藤 義郎 一般財団法人 日本科学技術連盟

委員

荒木 裕行 花王株式会社
製造統括部 基幹技術部 部長
磯貝 高行 日本経済新聞社
ビジネス報道ユニット長 兼 NIKKEI Prime 担当長
伊藤 桂一 株式会社日立製作所 モノづくり戦略本部
企画部 シニアプロフェッショナル
小川 慎一 横浜国立大学 大学院
国際社会科学研究院 教授
川合 拓 株式会社竹中工務店
経営企画室 TQM 推進部 部長

斎藤 定祥 NECプラットフォームズ株式会社 CS 品質推進部門
品質推進統括部 上席プロフェッショナル
株式会社リコー サプライチェーン機能統括部
品質統括センター QM 推進室 エキスパート
鈴木 孝一 株式会社ケアコム 取締役
品質管理機能および医療機器ビジネス
機能担当
高橋 純一 JSR 株式会社
製品・品質保証部 部長
富永 雄二郎 本田技研工業株式会社 品質改革本部
品質監理部 品質システム 2 課 課長
名倉 三加代 グローリー株式会社
生産本部 生産企画部 専門課長
森田 晶彦 株式会社 IHI 高度情報マネジメント統括本部
企画管理部 管理グループ 主査
山口 由貴子 株式会社 LIXIL 安全・品質統括部 品質企画部
品質教育グループ グループリーダー
吉水 健二 アサヒグループジャパン株式会社
SCM 部 シニアマネジャー

主催団体 委員

小野寺 将人 一般財団法人 日本科学技術連盟
専務理事・事務局長
木内 洋一 日本商工会議所 事業部 部長
下境 健一 一般財団法人 日本規格協会 業務執行理事

後援団体 委員

田中 大輔 一般財団法人 日本消費者協会
事務局次長
柳本 直行 公益財団法人 日本生産性本部
顧客価値創造センター・経営品質協議会
事務局長

(敬称略 五十音順 ※但し、委員長、副委員長除く)

掲載している情報は2025年8月1日時点のものです。

主催

品質月間委員会 一般財団法人 日本科学技術連盟
日本商工会議所 一般財団法人 日本規格協会

後援

NHK 一般社団法人 日本品質管理学会 公益財団法人 日本生産性本部
一般社団法人 日本能率協会 一般財団法人 日本消費者協会 QC サークル本部
一般社団法人 日本経済団体連合会 一般社団法人 品質工学会

品質月間ホームページ(<http://q-month.jp/>)もご参照ください

第
66
回

品質月間特別講演会

講演概要

- 今年度もZoomによるオンラインで開催いたします。
- PC、タブレット、スマートフォンからご参加いただけます。
- 日程、講演内容は準備でき次第、順次品質月間サイトへ掲載予定です。
(詳しくは月間サイトへ <http://q-month.jp>)

参加申込要領

【参加料】 1講演 ¥2,200(税込)

品質月間テキストの料金は含みません。テキスト購入サイトよりご購入ください。

【申込方法】

JSA Webdesk からお申込みください。

トップページ(<https://webdesk.jsa.or.jp>)
⇒セミナー・説明会・SQ大会
または、「日本規格協会 品質月間セミナー」で検索

お申込みいただいた方には、請求書を原則開講1か月前にお送りいたします。請求書に記載の期日までにお振り込みをお願いいたします。
定員になり次第、お申込みを締め切らせていただきます。
詳細はウェブサイトをご覧ください。

【キャンセルの取り扱いとお願い】

キャンセルの場合は開催1週間前までに Webdesk「お問い合わせフォーム」によりご連絡をお願いいたします。ご欠席の場合は返金をいたしませんので、代理の方のご出席をお薦めいたします。なお、キャンセル・ポリシーは以下の通りです。

●ライブ配信
セミナー開講日の7日前より受講料全額(100%)のキャンセル料を申し受けます。

●動画配信
申込後のキャンセルはできません。キャンセル時は、受講料全額(100%)のキャンセル料を申し受けます。

【ライブ配信について】

ライブ配信 セミナーでは、Zoom Web 会議サービスを利用いたします。

＜動作環境＞

受講用パソコン及びモバイルの動作環境については、Zoom の最新のシステム要件をご確認ください。

<https://support.zoom.us/hc/ja/articles/201362023>

受講前にこちらをご確認ください。

https://webdesk.jsa.or.jp/pdf/seminar/kensyu_kaijyo/live1.pdf

お申込みはお早めに!!

ご予約受付

第66回 品質月間資料お申込み方法

お申込み方法はJSA Webdeskをご覧ください。

1

JSA Webdeskを開く(<https://webdesk.jsa.or.jp>)

(「JSA Webdesk」でインターネット検索!)



2

書籍の画像が目印!

「規格・書籍・物品」のアイコンをクリック!



3

次の画面で「品質月間」のアイコンをクリック!

クリック後は画面の案内に従い、お申込みください。

Webdeskからのご注文を優先して発送いたします!

- FAXでご注文いただくよりも、納期が早い!
- 来年度以降、ご予約開始時期をメールでご案内!
- 「ご注文の確認メール」が届いて安心!

(従来通りFAXでご注文される方も、上記の画面にお進みください。WebサイトからFAX注文書をダウンロードいただけます。)

66回目の品質月間がやってきます。 各社で工夫されて効果的な品質月間を 実施してください。

各社で行う品質月間行事（一例）

- 品質の総点検
- 社内パンフレットなどの作成・配布
- 品質月間特別講演会、クオリティフォーラムなどへの参加
- Q旗の掲揚、品質月間ポスター・標語の掲示
- 社内報を品質管理(TQM)特集号とする
- 内部監査や社長などによるTQM診断の実施
- 論文などの募集・選考
- 社内の品質管理(TQM)大会の開催、関連する表彰式の実施
- 品質月間テキストなどの購入・配布
- TQMの観点からみたトップへの働きかけなど

ポスター

(多色刷)

- 全社的に各職場に掲示してください。
- 大きさ：72.5cm × 50cm
- 定価：各種(AまたはB)1枚…… 385円(税込)
1セット(2枚1組)…… 627円(税込)

2種類のポスターより1種類1枚からご購入が可能です。
2種類1組のセット販売も行っております。

(A)



(B)



社名入りポスター

- 社名入り品質月間ポスターのご注文を受け付けております。
- 社名入りポスターを活用し、活気ある月間運動を!!

- お受けする枚数：1点500枚以上
- お申込受付期間：2025年9月30日迄
- 定 価：1点1枚…… 319円(税込) ※バラ売りです

- 別途印刷費(税込・送料込)
500～1,000枚 一律 …… 44,000円
1,001～2,000枚 // …… 49,500円
2,001～3,000枚 // …… 55,000円
3,001～4,000枚 // …… 60,500円

胸章

(2色刷)

- 全社員の胸にみんなの合言葉を!
- 大きさ：直径5cm
- 定 価：10個1組(袋)…… 583円(税込)
50個1組(袋)…… 2,783円(税込)



*廃棄については各自治体の“決まり”をご確認ください。
市販の安全ピン、抗菌配合のノンフタル酸塩化ビニールフィルムを使用しています。

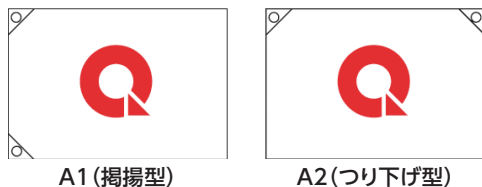
卓上のぼり

- 受付やデスク周りに手軽に設置できます。
- 大きさ：幅12cm×高さ(台座まで)36cm
- 定 価：2,530円(税込)



Q 旗

- 生産意欲を一つに結ぶ目印です。
全社的に各職場に掲揚してください。



A1 (掲揚型)

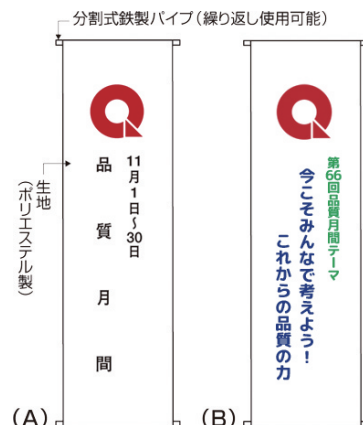
A2 (つり下げ型)

種 類	大 き さ	定 価
A1 (掲揚型)	105cm×155cm	2,530円 (税込)
A2 (つり下げ型)	105cm×155cm	2,530円 (税込)
B (掲揚型)	90cm×130cm	2,277円 (税込)
特大 (掲揚型)	140cm×210cm	4,389円 (税込)

垂 幕

- 各事業所に掲揚してください。
大きさ：A・Bとも255cm×92cm

種 類	定 価
Aセット(生地+鉄製パイプ)	4,664円(税込)
Bセット(生地+鉄製パイプ)	4,664円(税込)
垂幕生地A	2,783円(税込)
垂幕生地B	2,783円(税込)
垂幕用鉄製パイプ	1,881円(税込)



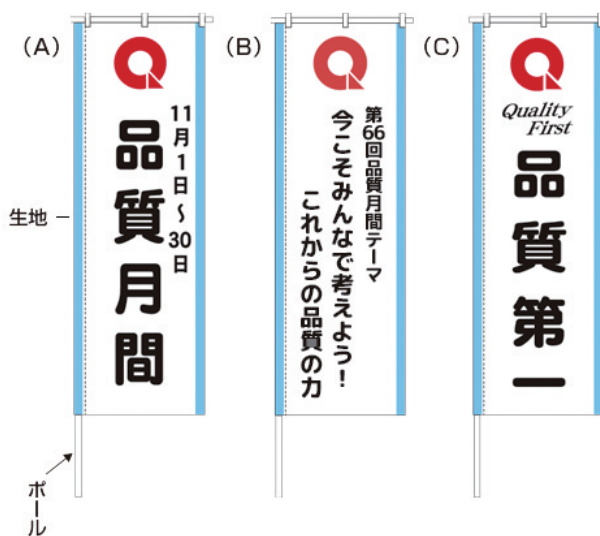
のぼり

- 各事業所に設置してください。
種 類：A(品質月間タイプ)
B(月間テーマタイプ)
C(品質第一タイプ)
- のぼり生地 大きさ：A・B・Cとも 60cm×180cm



ポール
材 質：パイプ)PP被膜鋼管
部品ジョイント)ABS
キャップ)ABS
横棒)FRP 85cm
大きさ：2段伸縮、全長3m、伸縮長1.61m
焼却処分時ダイオキシンを発生させない樹脂使用
中国製

種 類	定 価
Aセット(生地+ポール+注水台[置き台])	7,535円(税込)
Bセット(生地+ポール+注水台[置き台])	7,535円(税込)
Cセット(生地+ポール+注水台[置き台])	7,535円(税込)
のぼり生地A	1,881円(税込)
のぼり生地B	1,881円(税込)
のぼり生地C	1,881円(税込)
のぼり用ポール	1,265円(税込)
のぼり用注水台[置き台]	4,389円(税込)



注水台 [置き台]
材 質：ポリエチレン製
色：アイボリー
大 き さ：40cm角×高さ15cm
タンク容量：17リットル
適応パイプ径：20φmm～30φmm
中国製

標 語

- 全社的に各職場に掲示してください。
- 大きさ：12cm×37.5cm
- 定 価：1セット(5枚1組)…330円(税込)



※垂幕(生地・鉄製パイプ)、のぼり(生地・ポール・注水台)は単品個別販売を行っております。
※各商品のデザインは若干修正される場合がございます。
※数量に限りがございますためご注文はお早めをお願いいたします。

品質月間テキスト

●7種・A5判/各 定価627円(税込)
●テキスト(7種・各1冊)のセット販売をいたします。[1セット定価:3,762円(税込)]

第66回目を迎える品質月間では、次の7冊のテキストを販売いたします。
仕事に役立つ知識や事例がたくさん詰まっています。是非、皆様のスキルアップの一環として、あるいは品質活動に関する教材として品質月間テキストをご活用ください。

No.	対 象	テキストタイトルと主な内容	編著者
478	トップ	1.『カスタマーサクセスの推進－お客様とともに－』 近年のグローバル化や少子高齢化、デジタル技術の進展により企業経営環境が変化する中、持続的成長には経営資源の効果的活用と柔軟な組織作りが求められている。日本品質奨励賞(TQM奨励賞)を受賞した関工業株式会社は、2016年からTQM活動を開始し、5Sを導入して職場環境を改善した。2019年には全社的な品質向上を宣言したが、新型コロナウイルスの影響で業務の自動化・デジタル化を進め、生産性と精度を向上させた。また、顧客支援体制の強化にも取り組んでいる。本テキストでは、これらの事例や課題を通じて、中小企業が持続可能な経営を目指すためのヒントを紹介する。	関工業(株) 代表取締役 関 浩一 著
479	トップ	2.『海外から見た日本の品質経営の強さ』 日本の品質経営(製品やサービスの品質だけでなく、顧客価値の創造を含めた経営全体の質を向上させる考え方)はQC・QAからTQC・CWQC(全社的品質管理)、そしてTQM(総合的品質管理)へ進化し、日本の戦後の高度成長を支えたものであり、現在も日本のものづくりと「ジャパंकオリティ」の優位性を保っていることはよく知られている。また、日本の品質経営は独自性がありながら普遍性があるため1980年代ごろから世界50ヵ国以上で大変な人気を集め、今も途上国の製造業の発展に大きく貢献している。近年、国内で日本の品質管理が衰退してきていると一部で懸念されているが、日本の品質経営は今でも世界に通用するものであり、好調である。	ジャワハルルール・ネルー大学 元教授 Prem Motwani (プレム・モトワニ) 著
480	部課長	3.『悩める管理間接部門の管理者に捧げるTQM読本』 企業の生産性と品質の向上は重要な経営要素とされている。TQMは、企業のすべての部門・あらゆる階層の全員が参加し、継続的な品質改善を通じて顧客満足と企業価値の向上を目指す経営手法である。しかし、製造部門における活動のように経営に貢献する指標が明確ではないため、間接部門においては全員参加のTQMが推進できていないという悩みがある。本書では間接部門の管理者たちの果たすべき役割と責任、達成度を評価するための管理項目の設定の考え方を紹介する。	大阪電気通信大学 名誉教授 猪原 正守 著
481	部課長 現場	4.『安全確保のための人と機械の協調』 本テキストでは、自動化・自律化技術の進展に伴って起こりうる、人と機械との間の不整合に注目し、自動化の進む今日の人間機械系において、具体的に起こりうる問題事象、その事象が起こりうる原因について、事例を交えて紹介する。さらに、システム全体としての安全を確保するために、人と機械とがいかに協調すべきなのか、できうるのかについて、考え方を述べる。	筑波大学 システム情報系 教授 伊藤 誠 著
482	スタッフ 一般	5.『みんなの科学的な問題解決－問題解決を生きる力に－』 これまで産業界で実践を通じて培われてきた問題解決を、このたび仕事の中だけに留まらず社会・生活の様々な場面でも活用できる普遍的な方法として確立することができた。そこで、より広くの世の中の方々へ、より早く学生・生徒にも、問題解決について触れ、やってみようと思ってもらうことを目指し、特に、問題解決の「考え方」と、問題解決を「生きる力」にすることに重点を置いた、家族にも読ませたい入門書として本テキストを作成した。	(一社)日本品質管理学会 フェロー 監事 熊井 秀俊 著
483	現場	6.『岡山村田製作所におけるQCサークル活動の推進－現場に寄り添ったカイゼンを楽しむためのQCサークル活動の支援－』 株式会社岡山村田製作所では、2004年からQCサークル活動を実施している。活動の更なる活性化に向け、実態調査を実施したところ、活動時間が有効に使えていない、また、活動自体にやらされ感があり、楽しめていない実態が浮き彫りになった。そこで、SNSでなじみのある「ショート動画」による学習教材の提供や、「カイゼンを楽しむ」を体感できるカイゼンフェス、改善Dayなどの仕掛けを行い、社内のQCサークルの活性化につなげた事例を紹介する。	(株)岡山村田製作所 モノづくりサポート課 シニアプロフェッショナル 亀山 新太郎 著
484	部課長 現場	7.『企業に求められる品質マインドの醸成－階層別の学びと行動－』 品質不正を防ぐためには、役割や立場の違いに応じた理解と行動が欠かせない。本書では、過去の品質不正事例をもとに作成した想定ケースを通じて、現場・管理職・経営層それぞれに求められる「学び」と「行動」を整理し、品質不正の未然防止に向けた階層別教育のあり方を考える。	SOMPOリスクマネジメント(株) リスクエンジニアリング部 主任コンサルタント 松本 英里子 著 同上 チームリーダー (上級コンサルタント) 安藤 悟空 著

※テキストのタイトル・編著者など一部が変更になる場合もございますので予めご了承ください。